

## インターバンクの声（2015年12月14日）

先週のドル円は、123円台で東京市場の取引が始まっていたが、一旦持ち直すかにも見えた原油安が止まらず、世界経済の先行き不安の広がりから、リスク回避の姿勢が強まり、週末のニューヨーク市場では120円台まで円買いが進んでしまった。リスク回避が強まると、円が相対的に安全通貨となることが本当に正解かどうかは疑問なのだが、とにかく世の中がそのように認識している以上は仕方がない。11月の米小売上高のコア指数や生産者物価指数が市場の予想を上回ったり、化学会社大手の合併合意の報道による株価の上昇も一時的で、寄り付きから売りが殺到していた流れを止めることは出来なかった。また、毎日人民元安がゆっくり進んでいたことを不安に感じていた市場参加者も少なくなかった矢先、ニューヨーク時間中に中国人民銀行から中国元が依然割高であるとの見方が示され、市場のセンチメントがさらに悪化してしまったようだ。ただ、土曜日に発表された中国の11月の小売上高が今年に入ってから最も強い数字を示したので、週初の市場が中国経済の先行き不安を少し修正して来るのかどうかを見極めたい。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。